

「みんなが働き、楽しく暮らす」

NPO法人こむの事業所 松藤 聖一

1 仕事を得にくい人達に仕事を

- ・ NPO法人こむの事業所は、兵庫県宝塚市（人口 22 万人）において、昨年（2010 年）1 月 22 日に法人登記をし、4 月から知的障害者 3 人を雇用して事業を開始
- ・ 宝塚市社会福祉協議会が運営する市民の福祉活動拠点施設の掃除と障害者通所施設の昼食調理を受託
- ・ 2011 年 4 月から隣接する高齢者・児童福祉複合施設フレミラ宝塚の清掃を受託開始
- ・ 4 月 16 日こむの事業所建物竣工・事務所を移転、5 月 6 日に事務所開設オープンし、5 月 1 日付で障害者自立支援法に基づく就労継続支援事業 A 型事業に、障害者 10 人を雇用、
- ・ 5 月 9 日福祉コミュニティプラザ内の駐車場有料化と同時にこむの事業所による管理を開始
- ・ 6 月 13 日さざんか福祉会めふプラザ給食受託開始（約 40 食）こむの事業所給食も（約 15 食）、6 月 30 日レストラン「こむず」オープン、松華堂弁当 700 円（コーヒープラス 100 円）30 食限定提供、障害者 1 人を雇用
- ・ こむの市場事業として水曜日 1 日、西谷の島田さんから無農薬野菜を仕入れ米と合わせて販売（水曜日）障害者 1 名従事
- ・ えびす神社縁起の熊手の組み立て、社会福祉協議会から物資配送を受注、そのほか生鮮野菜などを販売する「こむの市場」も開設
- ・ こむの事業所の原則は、最低賃金の保障と民間就労の優先、つまり民間企業で働く力を持つ人は、雇用しません。

職員の状況

(1) 障害者	知的障害	8	精神障害	6	身体障害	1	計	15 人				
(2) 常勤	施設長	1	サービス管理者	1	統括マネジャー	2	計	4 人				
(3) パート	調理師	2	調理補助	2	清掃指導	2	清掃	4	事務	1	計	11 人

2011 年度予算等（単位円）

収入	53,395,000	ビル管理	13,550,000、	食事サービス	13,090,000
		こむの市場	500,000	自立支援費	20,090,000
		補助金	3,300,000		
支出	52,439,000	障害者賃金	11,070,000	就労支援職員賃金	8,110,000
		職員給与	15,440,000		

2 阪神淡路大震災から

- ・ 1995 年 1 月 17 日阪神淡路大震災では、宝塚市民 218 人が亡くなり約 2 万戸が全壊・

半壊の被害に

- ・ ある企業家が震災救助ボランティアを体験したことをきっかけに財団プラザ・コムを設立し、市民による福祉活動の拠点「福祉コミュニティプラザ」を整備
- ・ その一角はこれからの福祉コミュニティへのリザーブ用地としてあり、その活用のために宝塚市で福祉活動をする人達による福祉文化研究会を設置
- ・ 3年半の研究活動の結果、社会的排除のない地域社会を支える仕組みとして、特に「働く」ことをキーワードの事業を起こすことに
- ・ 障害者をはじめ仕事を得にくい人達の仕事を創出するとともに生活支援も

3 事業を支える3つのキープラスワン

- ・ 民間企業には就労が難しい人達が働き、最低賃金以上を得て自立生活をするためには、補完が必要
- ・ 本来は、国の制度とすべきなのかもしれませんが、今はない訳ですから、3つのことを必要
- ・ まず寄付や助成など企業や個人の経済的支援です。こむの事業所の拠点施設は、財団法人プラザ・コムが建築工事をしており、来年4月に完成後無償でNPO法人こむの事業所に貸付けます。
- ・ 2階建て1,700㎡の施設には、厨房、レストラン、売店、工房、教室、トレーニングルーム、成年後見センター等の事務所に加えて一時的使用のための住居が3戸
- ・ 財団は、施設以外の運営費は提供しないルールなので、特に昨年度の運営費赤字約600万円は、無利子、無担保、保証なしで3年間お借りし、その後3年間で分割して返済する条件で事業に賛同いただく個人に呼びかけ、627万円が
- ・ もう一つは、ボランティアのサポートです。レストランには毎日2人が
- ・ 3つ目は公的な仕事の受注です。事業を安定的に継続していくためには不可欠
- ・ これらのサポートに加えて重視しているのは、仕事のありかたの変革
- ・ 福祉コミュニティプラザ全体の駐車場管理の準備をしていますが、当初は全自動の機会管理を予定、それを人的管理に戻して障害者の仕事とすることに

4 社会的課題を突き詰めるとそこには社会起業

- ・ 個人的な出発点は、宝塚市の障害者施策・計画で出来なかった宿題を昨年3月の定年退職後の仕事として手がけることに
- ・ 1991年に描いた知的障害者のニーズ体系で出来なかった就労の場づくりが課題に
- ・ 福祉文化研究会の結論もソーシャルファームを作ろうという結論であり、研究会のメンバーが共有する社会的課題（ソーシャルアジェンダ）に
- ・ 社会が解決しなければならない課題としてコミュニティが認識すれば、解決するための社会起業が求められていることを実感しています。
- ・ イベントでアルバイトをしてくれた不登校やひきこもりの生徒・青年が社会との関係を回復するてがかりにもなっています。